

その他観察会

教員（遠足下見ガイドツアー）H8～13

平成7年から実施していますが研究科ができてからは年10回程度、主に錦織公園で行いました。平成13年まで続きましたが公園管理者の交代等により、終了しました。

熊取自然大学 H8～10

平成8年10月熊取自然大学が発足しました。町とシニア自然大学がタイアップし、市民環境教育を行いました。インプリ科のメンバーも講師陣に名前を連ねました。平成10年以降も続きましたが、科の参加メンバーが1～2名となったため、科の行事からは外しました。

こどもエコクラブH8～12

平成7年環境庁（当初）の提唱で「こどもエコクラブ」が各地で作られました。大きな意義は理解できても、具体的に何をするかわからない。こういった要望に応じて、シニア自然大学で観察会や事例発表会を行いました。インプリ科が誕生後はインプリ科がその業務を引き継ぎました。記録を見ると平成12年まで続いています。

淡路景観園芸学校H11～18

平成11年、淡路景観園芸学校の「花と緑のまちづくり指導者養成講座」ガーディナーコースの研修を実施しました。これはインプリ科が小学校以外に単独で行う初めての大きな研修会で、科を挙げて取り組みました。平成18年度まで続きました。
<平成11年7月淡路景観園芸学校>



教員研修（教育研究会等）H12～ H23～R元

研修の目的は、インプリによる自然観察の楽しさを体験し、生活・総合教育の進め方の参考にしてもらおう。

まず教師の方に、自然の不思議や魅力について五感をもって体感していただき、自然に接することの楽しさを味わってもらい、教育の現場に生かしてもらおうのが目的。

平成12年度に始まり、以降も断続的に引き受けました。平成23年度以降は毎年どこかの市で継続し実施しています。

主な受託先は、大阪市教育研究会、吹田市教育研究会、大阪狭山市教育研究会、羽曳野市教育研究会、茨木市教育研究会です。

大阪ひがし幼稚園（にこにこパーク、川遊び） H15～20

（にこにこパーク）

門真市にある、園児が400名強の大きな幼稚園です。広くて自然もある園庭等を利用して、園児や家族に自然と親しみ、楽しむ行事を計画し、その運営をシニア自然大学に委託してきたものです。インプリ科をはじめ他の研究科も一緒に実施しました。

（川遊び）

インプリ科単独の受注で、猪名川敷で実施しました。

大阪教育大インプリ研修H18～20 H22～R2

小学校の校庭自然観察会は減少傾向になっていました。そういった中で社会貢献活動の新たな分野への拡大を模索していました。

平成17年、大阪教育大柏原キャンパスで石川聡子先生の講座「環境教育論」の中で、インプリ科のメンバーが校庭の植物を中心とした自然観察会を実施する機会を持つことが出来ました。

担当した長井成美氏は後日その時実施した資料「自然とのつきあい どうなにー?!」を送っています。そしてその翌年の平成18年に教育大のインタープリテーション入門講座が始まりました。このことがきっかけでスタートしたものと思われる。

最初は生活科の授業として、インタープリテーションの実習を行いました。これが3年続いた後、平成22年から生活科教育法の授業に引き継がれ現在に至っています。

担当教官は、最初岡崎純子准教授、2年後からは佐久間敦史准教授が引継ぎ現在に至っています。子供たちに自然の不思議や感動を伝えるインタープリテーションの手法の講座は当初から継続しています。令和2年新型コロナの影響で対面授業が中止となり、生活科教育法のインプリ研修は中止となりました。

しかし少人数で対面授業が可能な教職大学院の授業の打診があり、引き受けることになりました。これまでの講座とは異なり、

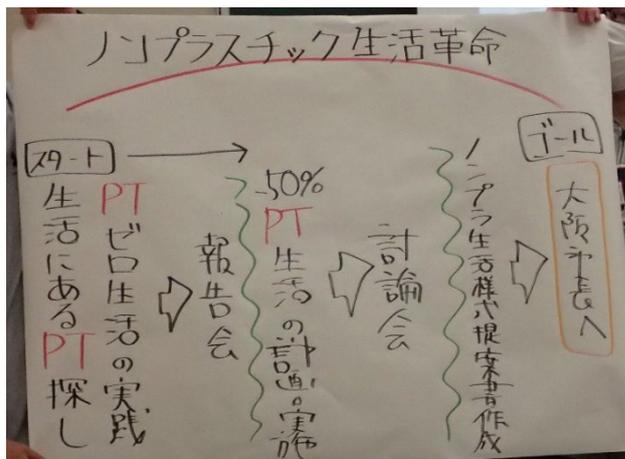
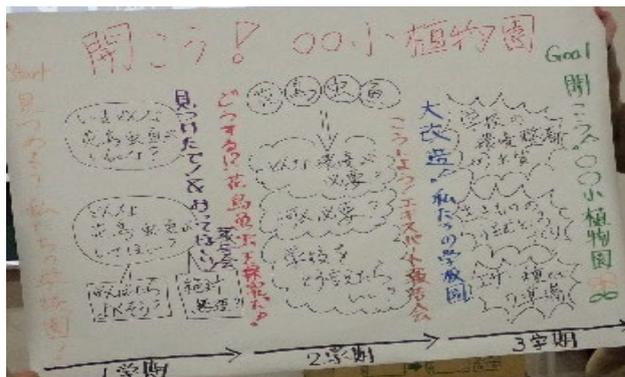
「3限<インタープリテーション実習>自然に関する屋外実習を通して、自然の不思議さ・楽しさ尊さを実感し、SDGs（特に環境）に関する総合的な学習のカリキュラムを検討する。」

「4限 テーマ「環境」に関する総合的な学習のカリキュラムを開発する。」を行いました。

教職大学院3限（インタープリテーション実習）



4限 環境に関する総合的な学習のカリキュラム開発 インプリ科のメンバーはオブザーバー参加



インプリ入門講座H18~R2

平成18年度のインプリ科の新入科生が1名にとどまったこと、小学校の出前教室の依頼が減ってきたこと、大阪教育大の手ごたえが良かったこと等が契機になって、講座生を対象としたインプリ入門講座を始めました。インプリとはどういうものかを知ってもらうことが目的でした。

第1回「おもしろわくわく自然観察—インタープリテーション入門講座」が平成18年9月長居植物園で始まりました。当講座は教育実習に組み込まれたこともあり、30人募集のところ40人以上

の応募あり、多くの方を断らざるを得ない状況になりました。

自然が好きな講座生ですので、私たちの目線で自分たちの言葉で話しても気持ちが通じるので、私たちもとても楽しい時間でした。

講座生の声として「一日楽しかった。面白かった。普段何 10 種の植物の話聞いても覚えきれないが、入門講座は 6 種だけ。これなら覚えられる。」とうれしい声を頂きました。

私たちはインプリ活動をして、「勉強になった」の言葉より「楽しかった。」と言われる方が成功なのです。「楽しかった。」の言葉は最高の賛辞です。

こんな風に入門講座を年 2, 3 回、10 年以上づけていたところ、令和 2 (2020) 年自然大学校講座部から、講座生全員にインプリについての講義をしてほしいと依頼がありました。インプリ入門講座の委員会をつくり、講座に耐える内容をつくりあげました。花組、緑組、星組の全組、全班に同じ内容の講義をすることは考えた以上に大変なことでした。終わった後で全員に感想を書いていただくと、「楽しかった。面白かった。」と好意的な意見がほとんどで、私たちインプリ科員一同、みんな喜びあいました。

そんな声が本部に届いたおかげで令和 3 (2021) 年もインプリ入門講座を受け持つことになりました。



高齢者大学校の講座支援 H21～29

平成 21 年姉妹校である高齢者大学校(野菜花樹木を育てて楽しむ科)の講座を引き受けました。住之江公園で野菜クイズ、工作、自然観察会などを行いました。講座の中で樹名板付けも行いました。これが平成 28 年まで続けました。

平成 23 年には自然文化を楽しむ科の講座支援が加わりました。こちらは年 3～4 回と本格的なもので年間計画を決め、自然不思議発見講座を行いました。主に長居植物園で行いました。しかし平成 29 年度を最後に突然終了しました。アンケートにはよかった、よかったの声であふれていたのに。

後日ディレクターの方とお会いする機会があり、突然やめた理由をお聞きしました。そしてやっぱりかというのが分かりました。

高齢者大学校には講師謝礼の基準があります。インプリ科が受注した初期は、基準の範囲内で受け取っていました。途中から本部受託に代わりました。その結果、受託料が 1 万円増額となりました。その増額分は高齢者大の講座生が負担しています。前からこの話は聞いていましたが、ついにおかしいという声を抑えきれなくなり、やむなく中止に至ったとのことでした。